

令和8年度 札幌市立東光学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：23020

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

実態	「学ぶ力」	
	成 果	課 題
	◇札幌市の共通指標から、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている」児童の割合が、他の項目に比べて高い傾向にある。 →令和7年度、「対話」を通して子どもが成長を実感する授業を目指し、研究実践を積み重ねたことで、他者とのかかわりによって自らの学びの深まりを実感することができた。	◇札幌市の共通指標から「自分で計画を立てて勉強している」「自分が思っていることや感じていることを人に伝えている」児童の割合が、他の項目に比べて低い傾向にある。 →校内研修の中でも、本校の児童は学びに対して受け身になる傾向にあることが話題となった。自ら問題を見だし、課題解決に向けて主体的に取り組む経験を日常的に積み重ねる必要があると考える。
	「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	◇札幌市全体の共通指標から「人の役に立つ人間になりたいと思う」という児童の割合は非常に高いが、「自分が必要とされている」児童の割合は、継続して低い傾向にある。 →毎日の授業において協働的な学びの充実を図ることに加え、発達段階に応じた自治的な活動を教育課程に位置付ける必要があると考える。また、活動後は、他者（教職員・児童・保護者等）からの意見や反応を基に、自らの取組を振り返る場を設定することで、自己の存在を価値あるものと受け止められるようにする。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

意欲的に学ぶ子 ～なりたい！やってみたい！考えたい！～

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	(1) 個を支える 「学びタイム」の実施→中、高学年児童を中心に、国語・算数の基礎的・基本的な学力の定着を目指す時間を毎週設定する。 (2) 集団を支える 「？がある」授業の実現→教師主導の学習から脱却し、子どもの「～たい！」を軸に授業を目指すとともに、その達成に向けて問題意識を共有し、協働的な学びを生む場を適切に設定する。	①縦割り活動「カラフルタイム」の充実→縦割り活動を教育課程に位置付け、上級生が創意工夫し、活動する場を設定する。その際、取組の様子を学校全体で共有し、他学年からのフィードバックを行うことで、自己有用感・自己肯定感の高まりを目指す。 ②生活の充実と向上を目指す活動の充実→自分たちの生活の様子から課題等を話し合い、その解決に向けて合意形成を図ったり、意思決定したりする場を設定することで、自分たちでよりよい生活を創り出したという実感を引き出す。
	「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
	◇個別最適な学びと協働的な学びを支える ICT の活用 →表現の幅を広げたり、他者と活動の状況や思いを共有したりすることで、「やってみたい、考えてみたい」という思いが生まれるよう、「まなびポケット」「Canva」などのアプリケーションの活用を目指す。 ◇ICT 活用の基礎的能力の向上 →キーボードタイピングを導入し、タイピング能力の向上を図る。 ◇情報モラル指導の充実 →教員向け ICT 研修会を定期的実施し、授業での活用法を紹介するだけでなく、情報モラルについての指導内容の共有を図る。	

<本プログラムの実行に向けて>



